

劣化対策など意見交換

コンクリート技術交流会

診断士会

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は17日、福井市松本の県職員会館で第4回技術交流会を開き、コンクリートの耐震補強や劣化対策などについて意見交換した。

会員約40人が参加。

コンクリート診断士の資格を更新する際に提出が義務付けられているレポートを中心に、今回は5人の会員が経験に基づく診断事例を発表した。石

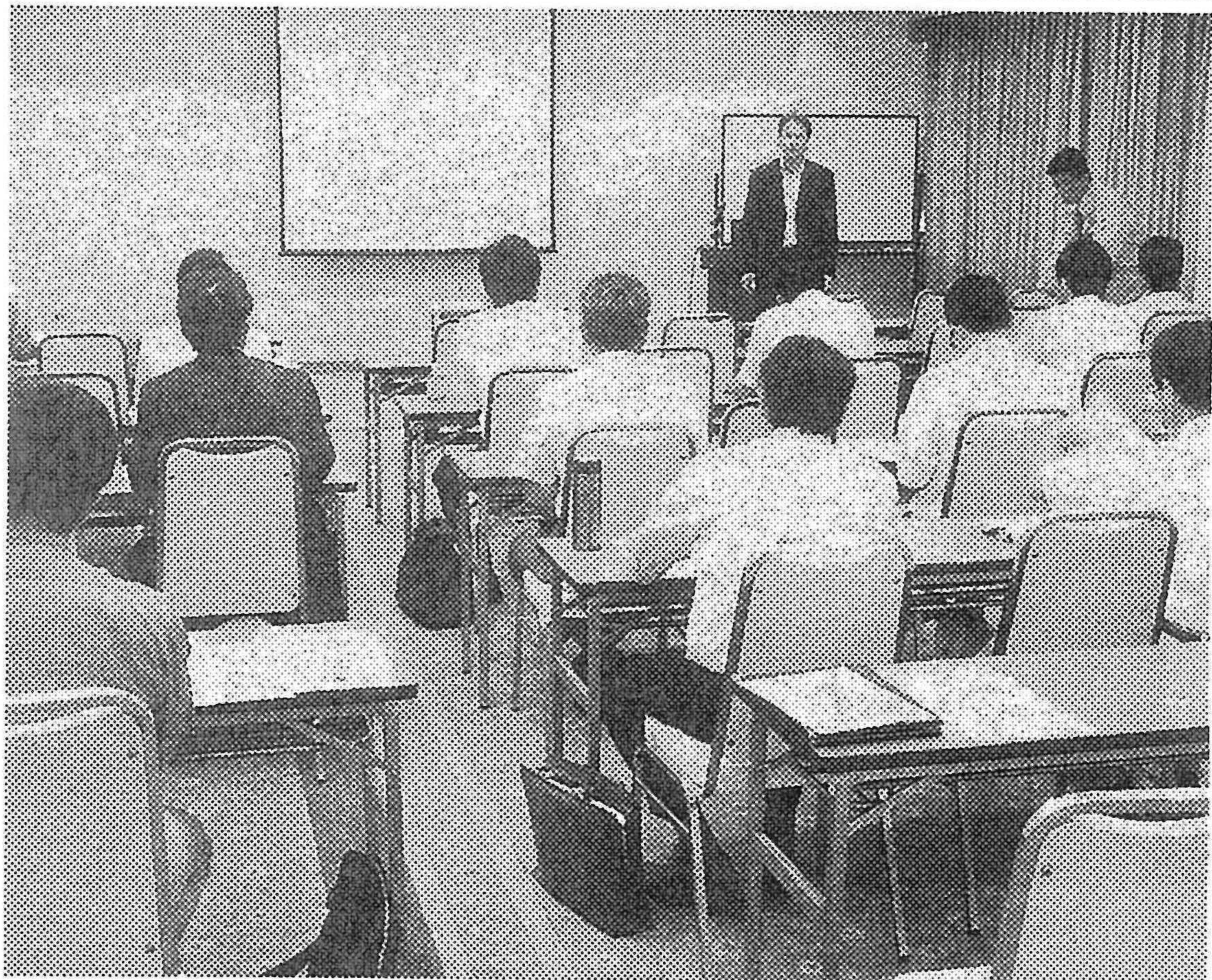
川会長は「この会は会員自身が関わった診断に基づく事例を発表してもらうもの。（会員同士の）横とのつながりを深めていただくことも目的の一つにしており、そのきっかけになればと願っている。実りの秋に、いろいろな意見が飛び交う実りあるものになりたい」などあいさつ。このあと、日本ピーエスの北山良氏が

「コンクリート橋の診断補強に対する一考察」をテーマに診断事例を発表した。

北山氏は福岡県で施工した既設コンクリート橋耐震補強工事での体験や感想を診断データを示しながら報告。工事は既設の多径間プレストレスト・コンクリートT桁橋に変位制限装置、落橋防止装置の取り付けを行ったもので、北山氏は施工内容を検証の結果、施部材変状の進行を点検で確認できない部位は劣化の発

見が遅れ大事故になる可能性があると指摘したうえで、「コンクリート構造物の建設には耐久性・耐震性を保ちつつ、維持管理に配慮した点検しやすい構造を採用する必要がある」などとまとめ、今後の課題を示した。

引き続き▽ASRによる損傷を受けた橋脚の詳細調査（東洋設計）▽プレキャストコンクリート製品に発生したひび割れ調査報告（ホクコン）▽福井県橋梁長寿命化修繕計画の策定について（県土木部道路保全課）▽近接目視による橋梁点検（財団法人・県建設技術



約40人が参加した技術交流会